

負けず嫌いの
熱血ガールが、
室戸を切り撮る。



大学時代、神戸で法学部に通いながら写真を学び、卒業後は、アメフトの大学リーグ戦を追って撮影するなど、カメラウーマンとして飛び回っていた。

今年、氏川彩加が室戸にUターンしてきたのは、母校である三高小学校が閉校すると聞いたから。「最後の姿を撮らなくては」と奮起した。そして撮影した写真を閉校式で披露した時に、「自分の作品づくりの原点は室戸にあるのでは？」との思いが高まった。

実家に戻り、中学校跡地にできたジオパークセンターのカフェ&ショップを預かりながら、撮りたいものがあればスタッフの協力を得て出かけて行く。

中学生時代はバスケット部に所属。「すごい負けず嫌いで突っ込んで行くタイプ」の熱血少女だった。今ではボールをカメラに持ち替えて、室戸という被写体に突っ込んでいく日々。

子どもの頃には外に向かっていて負けん気を内側に向けて、カフェでの仕事と写真を両立する。夢は、ジオパークセンターを拠点に、『世界規模の写真祭』を開催すること。

「私は写真を通して世界が広がった。世界ジオパークの地で暮らす室戸の子どもにも、同じように触発される機会を体験してほしい」。帰郷後、ジオカフェは、同級生や知り合いなど懐かしい顔が集まる場になった。ちょうどここは、中学の職員室だったところなのだ。

室戸ユネスコ世界ジオパークセンター
ジオカフェ・ジオショップ
氏川彩加

室戸じと、
進む。